



大森 正治 議員

猛暑・熱中症対策を

教育長

大山小のエアコン設置は来年度に



早くエアコン設置を（大山保育所）

【大森】今夏の本町での熱中症患者の実態は。

【町長】救急搬送された人は8月末で35人。高齢者は21人。

【大森】エアコン未設置の学校や保育所の設置計画は。

【教育長】学校の普通教室は、大山小を除いて完備。大山小は来年度に未設置の普通教室・特別教室すべてに設置する。

中山小・大山西小・名和中の特別教室については、今後、設置を検討する。
大山・庄内保育所の

遊戯室も今後、検討する。

【大森】体育館のエアコン設置も検討すべきと考えるがどうか。

【町長】ランニングコートが大きく、設置は考えていない。

【大森】高齢者世帯、低所得者世帯などへのエアコン設置の補助など検討しないか。

【町長】相当多くの件数になるので補助は難しい。公共施設などで日中を過ごす「クールシェア」の方策もある。これを来年度以降は広報したい。

子どもの貧困を 可視化して対策を

町長

必要な調査があれば取り組む

【大森】子どもの貧困対策法に従って、県は子どもの貧困対策推進計画を策定している。

【町長】具体的な指標として、学習状況、高校・大学進学率、不登校や高校中退の実態などに加えて、歯科検診など健康状況も入った。

本町児童生徒の歯科検診で要受診とされた者のうち、未受診の実態と理由はどうか。

【教育長】平成29年度の場合、要受診者は15% 166人、うち未受診者は63人。理由は、本人が習い事などを優先したり、保護者が仕事で多忙というケースが多い。

【大森】子どもの貧困対策を立てるために、

貧困に関する実態調査、例えば、貧困率、歯科や眼科などの健康状況、食事のとり方、学校外での学習時間などについて調査し可視化すべきではないか。

【町長】全体的な傾向は、県が策定した「子どもの貧困対策推進計画」の調査によって把握が可能である。今後、実態把握に必要な調査があれば取り組む。



給食が頼りの子どももいる